

子ども・子育て専門分科会における主な意見一覧

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
1	○現計画の進捗状況等について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（山本委員） 「育児支援家事援助事業」について、魅力的な事業だと思うが、実績が3世帯で延べ27回となっており、対象世帯数は多くないように思うが、どのような事業なのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局） 今年度は3世帯を超える利用があり、もう少し需要はあるかと思いますが、さまざまな機関が関わる中で、このご家庭にはしっかりとした支援が必要という場合にご紹介する形をとっています。</p>
2	○現計画の進捗状況等について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（藤村委員） 学童保育の指導員について、これまでは、保育士や社会福祉士などの資格が必要で、都道府県が行う研修を受けることを条件としていたものが、今後は、地方の裁量で基準の緩和が可能と聞いたが、枚方市としてはどのように課題認識しているのか。 子どもたちをみる人が経験者でなくてもよいという方向に行かないように、最前線で子どもたちを見守っていることの意義を踏まえて対応すべきと考える。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局） 枚方市では、これまでの国が定めている基準で支援員等を配置しており、今後も同様に継続していく予定です。</p> <p>（安藤会長） 基準について市町村の裁量となるということで、枚方市のできる範囲で、支援員の確保策なども含めて総合的に捉え、学童保育の質が悪くなる方向ではなく、良くする方向で議論されることが重要と考える。</p>
3	○現計画の進捗状況等について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（山本委員） 「子どもの未来応援コーディネーター」について、学校現場での子どもの課題と福祉制度をつなぐ支援を行っているということだが、就学後だけでなく、就学前にも積極的に対象を広げ、育児支援などの事業を周知できればよいと考える。</p>
4	○現計画の進捗状況等について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（藤村委員） 現在では、貧困が不登校につながるなど、さまざまな事例がある中で、学校の先生に相談できないケースもあると思う。このような支援が必要な家庭に対し、どのようにアプローチし、状況把握した上で支援していくかが、今後の課題だと考える。</p>
5	○現計画の進捗状況等について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（山本委員） 資料からは、幼稚園の定員割れの状況が伺えるが、今後の全体像について、どのように見込んでいるのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局） 少子化の進行、また、保育所等での保育を必要とされる方の割合が高くなっていることもあり、定員割れしている幼稚園があるのが現状です。今後、幼児教育・保育の無償化の影響なども踏まえ、幼稚園の需要も含めた教育・保育の全体の動向について慎重に見込んでいく必要があると考えています。</p>
6	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	<p>（北山委員） 子どもの発達についての質問を追加すべきではないか。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 就学前調査と小学生調査について、発達の悩みに関する項目を追加し、より悩みの詳細をお伺いすることとしました。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
7	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（石田副会長） 無作為抽出すると、複数の子どもがいる家庭に、複数の調査票が届く場合があるのではないか。  【ご意見を受けての対応】 同じ世帯に複数の調査票を送る可能性はあるため、就学前児童・小学生調査については、重複しないように抽出する対応を行いました。
8	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（石田副会長） 聞きたいことをなんでも聞くと回収率が下がると思うので、十分に精査すべきと考える。  【ご意見を受けての対応】 就学前児童調査について、市独自等の調査項目について見直し、前回の85問の設問数を77問に整理しました。また、全調査において、回収率が少しでも上がるよう、文字を大きくしたり間隔を広げるとともに、QRコードを封筒に印刷したり、調査票に市章を入れるなどの工夫を行いました。
9	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（山本委員） 自営業者や会社役員等は育児休業を取らないので、選択肢等の記載方法を考えてほしい。  【ご意見を受けての対応】 自営業や会社役員等の育児休業制度がない方の選択肢を追加しました。
10	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（山本委員） 障害のあるお子さんがおられる家庭への調査項目も必要だと思う。例えば、医療的なケアが必要なお子さんの保育のあり方の検討につなげられると考える。  【ご意見に対する回答】（事務局） 障害者施策の部署が障害児を対象にした計画策定等の取組みをしており、庁内で連携しながら検討していきます。  （石田副会長） 市町村では障害児計画をつくっていると思うので、それとの整合性を図っていくことが、本計画をつくる際の課題になると思う。
11	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（長岡委員） お子さんと同居している人などは何を意図した質問なのか。ひとり親家庭を把握するためか。  【ご意見に対する回答】（事務局） 国が示す目標事業量の算出方法において「ひとり親家庭」のニーズを把握する必要があるためこの選択肢としています。また、本計画においても、ひとり親家庭への自立支援について推進していることから、世帯構成としてひとり親世帯の把握は必要と考えています。
12	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（石田副会長） 選択肢に「専業主婦」と表記があるが「主夫」も追加するなどの配慮が必要なのではないか。  【ご意見を受けての対応】 「家事専業」という表記に改めました。
13	○第2期計画の策定に係るニーズ調査について	平成30年度 第2回 ＜平成30年11月30日（金）＞	（北山委員） 幼稚園ニーズを知る上で、幼稚園を利用している方に対して、0～2歳児の時にどのように過ごしていたのかを把握する必要があるのではないか。  【ご意見への対応】 幼稚園児調査において、入園前に在宅で子育てをされていたのか、または、保育サービスを利用していたのか等について確認する質問を追加しました。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
14	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（富岡委員） 「現在の暮らし向き」の設問について、「普通」という回答の幅は広いが、その中で「大変苦しい」「やや苦しい」という回答している人は本当に経済的な苦しさを感じているのだと感ずる。「大変苦しい」「やや苦しい」を合わせて約43%という割合を重視し、十分に分析すべきである。
15	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（富岡委員） 「数」の確保と「質」の確保の両方を考える必要がある。ニーズの社会的背景を理解することが重要だ。たとえば、ニーズ調査の「自分自身に関して悩んでいること」の設問をみると、「子育てにかかる出費がかさむ」、「自分の時間が十分取れない」が多い。一方で、「就労状況」の設問をみると「パート・アルバイトで働き続けたい」も多い。どのような就労をしたいのか、子育てにどのくらいお金をかけたいのか、自分の時間をどのくらい取りたいのか、といった背景を十分に理解しないと、行政が子育て支援として「どんどんニーズに対応する」となることには不安がある。
16	○第2期計画のニーズ調査の集計報告について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（北山委員） 「ニーズ調査でニーズが出たから受け皿を増やす」というだけでは、現場がハードワークになり、養成校を出た人がすぐ辞めてしまって人材が育たない。「需要にいくらでも応える」というのは少し考えないといけない。例えば延長保育・預かり保育などは、本当に必要な人が利用するのはよいと思うが、家庭でみることのできる場合もあり、「どの部分のニーズに応えるか」を十分に議論して、市民にも理解を求めながら、子どもにとって良い環境を整備するという視点を忘れずに検討する必要がある。
17	○現計画の目標事業量の変更について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（岩田委員） 資料の目標事業量のデータに、平成31年4月以降に開園する園などは含まれているのか。  【ご意見に対する回答】（事務局） 既に反映済みです。
18	○現計画の目標事業量の変更について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（田中委員） 資料1-1の認定こども園へ移行する施設について、1号認定の定員が15人増えるという同じ内容の表が上下2段に掲載されているが、どこが異なるのか。  【ご意見に対する回答】（事務局） 名称を明記していませんが、2つの私立保育所が移行して、それぞれで15人増えるためです。
19	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（岩田委員） 入管法改正により、言葉の通じない外国籍の子どもやその保護者が今後さらに増えると思う。現場では言葉が通じないので身振り手振りで対応するといったことが起きており、対策が必要である。
20	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（岩田委員） 留守家庭児童会室について、年度末が休みなので、働く保護者が利用できずに困っているという声を聞く。保育所は休みなしなので、保護者は保育所と同じ感覚をもっておられる。
21	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（岩田委員） 市は公立施設の民営化を推進し、私立保育所・幼稚園が増えてきているが、公立保育所・幼稚園の担うべき具体的な役割とはどういうことか。  【ご意見に対する回答】（事務局） 公立施設の担うべき役割については、平成30年11月に本分科会にご意見をいただきながら作成した「就学前の教育・保育施設に係るひらかたプラン」において、「民間の就学前児童施設と協調しながら、小学校へのスムーズな接続に向けた保幼小の連携を推進する役割」、「国から示される指針等を踏まえ率先して教育・保育を実践し、その中で見えた課題等の情報共有を行う役割」、「特に配慮を要する保護者や支援が必要な子どもに対して、専門相談機関と連携しながら支援を行う役割」と整理しています。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
22	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（板床委員） 子ども食堂について、母親が車で送迎しているケースがある。利用者が必ずしも支援の必要な人ではないケースがあると感じる。  （安藤会長） 子ども食堂については、事業として発展していくなかで、「貧困対策」だけでなく、「地域の子どものつどいの場」という意味が付け加えられてきた地域もある。各地域の実情に合わせて順応していくことも必要かと思う。
23	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（板床委員） 子育てに関するサロンなどの地域活動に、専門的な方を派遣してもらえれば、地域の子育ての場ももっと充実すると思う。
24	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（富岡委員） 効果が目に見えるようなものは評価されやすいが、ハードよりソフトの充実、有機的に連携した支援の充実、といった効果の見えにくいところにも力をいれてほしい。たとえば先ほどの専門職の派遣については、年に何回と「固定」するより、ニーズを把握して特定の地域には集中して行くといった「選択・集中」ができるとうい。「選択・集中」も固定せずに常に見直すことが重要だが、それができる都市の規模を活かして枚方市の強みにできればよい。
25	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（山本委員） 問題が顕在化してから対応するのではなく、潜在的な問題に気づいてほしい。「切れ目のない相談体制」でお待ちしていますと言っても、相談するべきときに気づけないまま一大事になっている。たとえばエコチル調査（子どもの健康と環境に関する全国調査）では、詳細な回答を要求するかわりに、回答すると商品券などの謝礼があり、回答しないと督促するなど、かなり予算をかけているようだ。子育て支援の総合窓口などで、アンケートを定期的実施するなどしてはどうか。現在の保健師の全数訪問では1度会ったきりになってしまうが、郵送で返送するという形でもいいので、定期的につながるような施策をつくれればよいと考える。
26	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（山本委員） 施策目標5「子育てと仕事の両立支援」について、認可外も含め様々な保育施設があるが、保育の質の確保のため、例えば公立園が中心になって、外国籍の子どもへの対応で困っている現場に、利用できる制度の紹介など、現場に情報提供できるような支援があるとよい。
27	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（北山委員） 保健センターと子ども総合相談センターの部署が異なるが連携できているのか。施設等への連絡が別々に来るように感じる。  【ご意見に対する回答】（事務局） 保健センター・子ども総合相談センターに加えて府の中央子ども家庭センターが、それぞれの立場で気になる点についてお聞きするということがあります。ただし、要保護児童などの情報は三者で共有し、対応方針について検討しています。
28	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（藤村委員） 留守家庭児童会室の放課後児童支援員について、職務に魅力を感じても辞めてしまうのは、労働条件が自立できる内容ではないからだと思う。5、6年生では体力的に男性の力が必要になる。4,900人の子どもを受け入れるのであれば、労働条件の改善が必要と考える。
29	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 ＜平成31年3月26日（火）＞	（藤村委員） 施策目標4「地域における子育ての相談・支援」について、赤ちゃん訪問では、子育て環境や困りごとなどを把握することができ、必要があれば保健センターからも訪問していると聞く。虐待の裏には、相談が必要なことに気が付いていない場合があると考えられるので、相談「待ち」ではなくアウトリーチで情報を得ることは重要である。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
30	○第2期計画の基本的な考え方について	平成30年度 第3回 <平成31年3月26日(火)>	(北山委員) 私立幼稚園にも臨床心理士が来られているが、公立幼稚園には週1回となっており、私立にも回数を増やせるとよい。 また、施策目標5「子育てと仕事の両立支援」に関して、幼稚園教諭も不足しているので、「保育士等就職支援センター」の名称について「幼稚園教諭」も追加してほしい。
31	○第2期計画の施策の推進方向(骨子)について	令和元年度 第1回 <令和元年6月10日(月)>	(岩田委員) 前回分科会で、入管法の改正により外国籍の子どもが増えるであろうことへの対応の必要性について発言した。実態として、枚方市の全地域の幼稚園や保育所ではどのような困難事例があるのか、現状を把握することが重要だと考える。
32	○第2期計画の施策の推進方向(骨子)について	令和元年度 第1回 <令和元年6月10日(月)>	(藤村委員) 資料1のP.26の「保健センター」、「北部リーフ」について、相談の対象となる「子育て期」とは18歳までと考えてよいのか。 また、北部リーフには子育て世代包括支援センターとしての機能も含まれるとのことだが、不登校になっている子どもや、発達障害の子どもの相談も受けられるのか。  【ご意見に対する回答】(関係部:健康部保健所) 就学前のお子さんの相談が多いですが、対象年齢については特に定めず、広く相談を受け付けています。 発達障害などの相談については、お話をお聞きしながら、関係機関につなぎます。
33	○第2期計画の施策の推進方向(骨子)について	令和元年度 第1回 <令和元年6月10日(月)>	(為金委員) 資料1のP.36「放課後子ども教室モデル事業」について、利用状況などの実績はどうだったのか。 また、同モデル事業は、学校施設を活用することなので、同じ敷地内で実施している留守家庭児童会室や放課後自習教室などと連携できるとよい。  【ご意見に対する回答】(関係部:社会教育部) モデル事業の利用状況については、4校で実施し、学校規模にもよりますが、1校でおおよそ1日当たり10~30人、平均20人程度の参加がありました。
34	○第2期計画の施策の推進方向(骨子)について	令和元年度 第1回 <令和元年6月10日(月)>	(山本委員) 資料1のP.21「幼児教育・保育の無償化に伴う副食費」について、給食全般が無料になればよいと多くの保護者は思っている。
35	○第2期計画の施策の推進方向(骨子)について	令和元年度 第1回 <令和元年6月10日(月)>	(田邊(卓)委員) 資料1のP.7「障害のある子どもへの教育・保育の充実」について、「ひらかた子ども発達支援センター」を設置したことに伴い、「療育体制の充実」という項目を削除し、他の項目と統合した理由は何か。 また、ひらかた子ども発達支援センターの医療的な側面・位置づけについて、どう考えているか。  【ご意見に対する回答】(事務局) 第1期計画においては、新たな児童発達支援センターを整備することから、「療育体制の充実」の項目を設定していました。第2期計画では、新たに設置した子ども発達支援センターをどのように活用して施策を進めるかという視点から、関連する項目に記載し、施策体系を整理しています。  【ご意見に対する回答】(関係部:子ども青少年部) 医療型の部分を福祉型児童発達支援センターとして統合しましたが、大阪医大や市立ひらかた病院などから医師に来てもらう日を増やすなど体制を整えており、医療的な側面については強化できたと考えています。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
36	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（石田副会長） 資料1のP.9「主な取り組み」の中で「障害児保育」の項目だけにひらかた子ども発達支援センターが表記されているが、同センターが関わる項目が他にもあるため整理が必要である。 また、障害児福祉計画との整合性も十分に検討する必要がある。
37	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（山本委員） 資料1のP.38「子どもの意見を大切にしまちづくりの推進」について、広島県の事例で、保健室登校を子どもたちのボイコットだと捉え、フリースクールのような教室を用意する取り組みがテレビで紹介されていた。子どもたちが意見を表明するだけでなく、それを大切にしまちづくりの推進を考えなければならない。
38	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（長岡委員） 資料1のP.27「教育相談の充実」について、保護者や児童・生徒からの相談に「父親の参画」の視点がないように感じる。P.36「男女がともに参加する子育ての推進」にあるように、男女がともに子育てに参加できる環境づくりを進めるため、土日に受けられる相談窓口が必要ではないか。
39	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（岩田委員） 資料1のP.32に記載されている待機児童対策について、4月は待機児童がゼロであったとのことだが、通年ゼロというのは、保育園の立場で考えると定員を空けて待っていることになるため難しいと感じる。
40	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（岩田委員） 資料1のP.32「子育てと仕事の両立支援」について、保育所（園）の開園日数と、留守家庭児童会室の開室日数との差が大きい。働く保護者にとっては、留守家庭児童会室に休室日があると厳しいということを踏まえて、改善を検討していただきたい。
41	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（藤村委員） 資料1のP.39「児童虐待防止体制の充実」について、自身で相談が必要なことに気付いていない人や、孤立してしんどさを吐き出す場所がない保護者など、相談窓口や子育てサークルに來れない人をどのようにサポートするのが課題だと考える。また、その際は、子どもへの支援だけでなく、保護者の心のケアもしていかなければならない。
42	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（為金委員） 留守家庭児童会室の支援員について、従来は職員の数が多かったため、一人ひとりの子どもを直接に見て状況を把握できていた。人材不足によって、子どもの把握が難しくなっていることに、職員自身もジレンマがある。職員数が少ないことのしわ寄せが子どもに出ている実態がある。
43	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（岩田委員） 留守家庭児童会室の支援員の資格は何か。  【ご意見に対する回答】（関係部：社会教育部） 保育士、社会福祉士、教員免許保持者などで、条例で資格要件を定めるとともに、府知事が実施する研修の受講が要件です。現在108班体制で、各班に2名が必要です。さらに、配慮を要する児童が在籍する児童会室では、運営全般を踏まえ加配する場合があります。  （安藤会長） 枚方市には、府の研修を受講して資格認定された支援員はどのくらいいるのか。  【ご意見に対する回答】（関係部：社会教育部） 今年度においては、約150人となっています。なお、研修受講について、平成27年度以降5年間の猶予措置があるため、今年度末までに資格を取得する方もおられます。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
44	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（田邊（快）委員） 留守家庭児童会室のハード面の整備について、これから暑くなると外で遊べなくなり、室内での利用が主になると、受け入れ数に余裕がなくなるのではないかと懸念されている。 また、PTAでも両親の働いている家庭が増えており、受け入れ先がないことに保護者の不安が高まっている。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：社会教育部） ハード面では、専用室が不足していますので、学校の余裕教室を借りるなど、学校側と調整しています。 入室児童の希望が多いことに対しては、放課後のさまざまな居場所の確保と留守家庭児童会室とを一体的に整備する取り組みを検討しています。</p>
45	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（安藤会長） 資料1のP.34「保育士等確保の支援」について、ハード面での整備は課題もありながらも進められているが、人材確保の仕組みが進んでいない。介護などの別の福祉分野では人材確保が法制化されているが、子育て分野ではまだ整備されていない。求職に来る人を待っているだけでなく、離職する人を登録するなどの仕組みが必要と考える。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 保育士の離職時の届出については、平成31年1月に立ち上げた保育士等就職支援センターの事業の一環として、保育園等にご協力いただきながら行う仕組みをつくっています。マッチングについては、開設当初は登録も多かったのですが、だんだん減ってきている傾向があり、今年度は出張相談会を実施するなど、積極的な取り組みが必要と考えています。</p>
46	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（岩田委員） もう少し人材がいればもっと子どもを受け入れられるのに、と思っている施設などは多く、ハローワークとの連携などによる保育士等就職のマッチングには期待している。民間の事業者などによる人材紹介を利用すると、1人あたり100万円近く手数料がかかり、すぐに辞めることもあり、人材の確保に苦慮している。</p>
47	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（長岡委員） 元保育士の母親に話を聞くと、仕事に戻らない理由として、自分の子どもを預けて他人の子をみることへの抵抗感と、勤務時間の自由度が少ないという声がある。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 保育士等就職支援センターでは、求職者一人ひとりと面談をして、就労時間の希望などを確認するようにしています。保育園から求人情報を登録いただく際にも、人材が必要な時間帯など、細かなニーズを把握しながらマッチングを行うよう努めています。</p>
48	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（為金委員） 約20年前になるが、他市では、有資格者を登録する仕組みがあり、登録してから2か月ほど後に求人の連絡があった。有資格者の登録制度があれば、人材が足りない場合などに、市の方から働きかけることができるのではないかと懸念されている。</p>
49	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（田邊（快）委員） 資料1のP.15「防災キャンプ」という用語について、年に2校くらいしか実施していないと聞く。本文に併記されている「祭り」や「運動会」と比較して実施校が少ないことから、各校区で行われている「自主防災訓練」にまとめてはどうか。</p>
50	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（田邊（快）委員） 資料1のP.5「コミュニティ・スクール」の部分に関連して、計画の中でPTAや青少年育成指導員など、個別の組織の名称が記載されている。一つの組織だけでなく、地域全体で取り組むという視点から、例えば「校区コミュニティ協議会」といったように、地域住民を広く包含するような記載にまとめた方がよいのではないかと懸念されている。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
51	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（藤村委員） コミュニティ・スクールとは具体的にどのような内容の事業なのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：学校教育部） 学校の中に協議会を設置し、地域、PTAに協力していただきながら、登下校の見守りや行事への参加などの活動をいただいています。昨年度は5校で取り組まれています。枚方市は地域がとでも学校に協力的な市だと感じており、更に協議会という形で取り組みを進め、良い取り組みを拡大していきたいと考えています。</p> <p>（田邊（快）委員） コミュニティスクールについては、PTAでは、これまでの取り組みとあまり変わらないという意見も出ています。代表者が参加して話し合うので、手続きが簡潔になるという利点はあると言えるが、一方で、代表者になることを重荷に感じている人も多い。モデル校以外の学校にも広げることになるだろうが、どうしても他校の様子をうかがいながら進めることになるので、進捗が遅いのではと考える。</p>
52	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（田邊（卓）委員） 資料1のP.8「障害の早期発見・早期支援」について、早期の気付きは児童、保護者にとって非常に重要なことであるが、実際の「健診のシステム」として、発達障害を拾い上げるようにはなっていないと感じる。特に、「落ち着きがない」とか、「不器用さがある」といったことについては、現状のやり方の中では漏れてしまうと思う。</p>
53	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（山本委員） 幼稚園・保育所に行く前の2歳までの時期は、基本的に何か問題を抱えていて、支援があれば一部の問題が緩和されると考えた方がよいくらいに困難な時期だと思う。支援が届いていない方は問題を抱えたままになり、子どもへの虐待につながってしまう。せめて半年に1回くらいは、定期的に直接子どもの安全確認ができるようなシステムを、計画期間の5年間でつくっていけないだろうか。</p>
54	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（山本委員） 資料1のP.23の防犯や交通安全活動について、通学路の点検だけではなく、幼稚園・保育所の散歩コースなどの点検も必要ではないか。アンケート調査などによって危険な場所を洗い出し、優先度の高いところから整備するとよい。</p>
55	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（山本委員） 特別養子縁組の制度の理解を深めることについて、計画に記載してはどうか。日本では養子であることを隠すという風潮があるが、欧米ではもっとオープンであり、意識的な問題であるので、啓発が必要ではないかと考える。</p>
56	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	<p>（山本委員） 資料1のP.38「性的マイノリティの支援」に関連して、5歳からの適切な性教育を行うことを記載してはどうか。相手を大切に、とといった個人の尊重につながる考え方を、幼稚園・保育所の段階からフラットに伝えて、偏った情報を最初に目にしないようにすることが、性的マイノリティへの理解の促進につながる。また、自身が性的虐待を受けていることに気付けないという事案もあるため、正しい知識を身に着けることで、性被害を訴えることもできるようになる。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
57	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞	（藤村委員） 資料1のP.30「多胎児家庭に対する支援の推進」に関連して、対象を全家庭に幅を拡げた支援をお願いしたい。出産後、病院から自宅に帰ってきたときの母親の精神的負担が大きい。ファミリーサポートセンターは概ね生後3か月以後が対象なので、空白ができています。母親が家事から離れて、子どもをかわいいと思える時間が持てることは重要だと思う。  【ご意見に対する回答】（関係部：健康部保健所） 産後ママ安心ケアサービスという産後ケアの取り組みを進めており、出産後すぐのショートステイ・デイサービスの事業を実施しています。
58	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（石田副会長） 枚方市いじめ防止基本方針では、スクールソーシャルワーカーについて重要な位置づけとして記載されているが、本事業計画には記載がない。整合を図るため、記載が必要ではないか。
59	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（石田副会長） 施策目標4「地域における子育ての相談・支援」のところで、第2期計画に向けて求められる対応の2つ目の「子育て相談を行う機関のネットワーク組織の機能的な連携」は特に重要だと考えるが、具体策の記載が不足しているのではないか。
60	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（田邊（快）委員） いじめ問題について、加害者であった子どもが、逆にいじめのターゲットになり被害者になるケースもある。加害者に対する対応・フォローが必要ではないか。
61	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（田邊（快）委員） 近年、SNSなどを使ったいじめが問題になっている。対策について記載が必要と考える。
62	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（北山委員） 資料1のP.8「障害の早期発見・早期支援」について、発達障害などを早期に発見した後、保健センターや子ども総合相談センター、学校など関係機関がどのようにつなぎ、切れ目なく支援していけるかが重要だと思う。
63	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（北山委員） 資料1のP.29「一時預かり事業の実施」において、幼稚園の長時間預かりについては、子どもにとってあるべき生活習慣を踏まえると、全てのニーズに対応することは検討の余地がある。
64	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（北山委員） 資料1のP.35「放課後児童の安全確保・指導の充実」について、職員の確保も重要だが、同時に質の確保も必要だと考える。
65	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（富岡委員） 通学路の安全確保や児童虐待の防止などについて、現在の社会状況を鑑みて、記載を充実させてはどうか。
66	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（富岡委員） 推進方向の記載について、もう少し具体的な取り組みが見えるような表記をした方がよい部分がある。ボリュームの問題もあるので、例えば関連計画を明示するのも1つの方法である。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
67	○第2期計画の施策の推進方向（骨子）について	令和元年度 第1回 ＜令和元年6月10日（月）＞ （事後意見）	（富岡委員） 保幼小連携のためには、愛知県で実例があるが、小学校の先生が保育園や幼稚園に出向くという方法が効果的である。
68	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（岩田委員） 資料2のp.37「①育児教室等の推進」について、「公立保育所では」と書いてあるが、私立でも実施しているのではないか。 同様に、「②地域子育て支援拠点事業」についても、「公立幼稚園では」と書いてあるが、私立でも実施しているのではないか。
69	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（岩田委員） 資料2のp.38「⑥一時預かりの実施」について、「幼稚園においても…実施します」と書いてあるが、既に実施しているのではないか。 同様に、p.42「④延長・夜間・休日保育の実施」について、「私立保育所（園）において…実施します」と書いてあるが、「実施しています」と書くべきではないか。  【ご意見に対する回答】（事務局） 「引き続き」という文言を多用することを避けるため、現在、すでに実施している事業や施策も含め、「実施します」と表現を統一しています。
70	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（山本委員） 参考資料として明石市の冊子などを持参した。アウトリーチ型の早期支援の重要性について紹介されているので参考にしてほしい。素案については充実した内容となっていると感じるが、市の子育て施策の充実について、いかにわかりやすくアピールするかが重要になると思う。その参考として、明石市は保育の完全無料化や里親100%プロジェクトなど子育て施策に力を入れていることをわかりやすく広報している。枚方市の施策についても、子育て世代の定住促進につながるようなPRの仕掛けを考えることも必要だと考える。
71	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（山本委員） 相談窓口について、SNSでの相談は電話相談と比較して敷居が低いようで、多くの相談が寄せられると聞く。 今後普及していくと考えられるので、SNSを通した子どもの相談窓口に取り組んではどうか。
72	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（山本委員） たとえば子ども食堂のように、地域で子育てを支える色々な取り組みがあると思うが、そういった活動を促進していくという考えは計画のどのあたりをみればよいか。  【ご意見に対する回答】（事務局） たとえば、p.21「④地域で子どもを育てる環境の整備」の「子ども食堂に取り組む団体との連携」や、「③異年齢間、世代間交流の推進」などで地域における活動の推進に関して記載しており、補助金等を通じた支援を行っていますが、引き続き、事業の効果的な周知等について検討していきたいと考えています。
73	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	（山本委員） 保育の無償化のタイミングをとらえて、いろいろな質の高い保育を設定保育に加えて提供するチャンスになると思う。たとえば外国の文化を学ぶといった特色ある教育保育を行っている園を紹介し、横展開を促進するなどの取り組みがあればよいと思う。

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
74	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（岩田委員） 資料2のp.14「①保幼小のネットワーク化の推進」について、「ネットワークの構築、強化を図ります」とあるが、なかなかシステム化されないことが何年も課題になっている。保幼小のすべての子どもたちが、小学校へスムーズに接続できるような方法を考えてほしい。</p> <p>（安藤会長） 保幼小から小学校への連携はよく議論されるが、学童保育への連携の話が出てこない。放課後児童クラブ運営指針にも書かれているのに、保幼小や小学校の当事者の意識からも抜け落ちているのが問題ではないかと思う。 また、外国につながる子どもへの支援についても、就学前だけではなく小中高にもついても同様である。特に、保護者は言葉などの文化に馴染みにくいので、保護者に焦点を向けた配慮も必要だ。</p>
75	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（長岡委員） 外国につながる子どもについて、新生児の訪問をしている中で、最近日本語の通じない家庭が多い。以前は中国残留孤児関係者が多かったが、最近はいわゆる開発途上国のアジアの国々が多い。生まれてくる子どもは減少しているのに保育園が足りないということは、就業している母親が多くなっているということだと思うので、学童保育の問題はますます重要になると思う。</p>
76	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（岩田委員） 学童保育について、小学校とは別のものとなっているが、一つのものとするのは難しいのか。個々の保育園では、必要に応じて、学童の先生と個別に懇談して申し送りなどしている。子どものことを考えると必要なことだと思うが、もう一歩踏み込んでシステム化はできないのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：社会教育部） 情報共有の仕組みについては完全にはできていないとは言えない状況ではありますが、適宜相談しながら取り組んでいます。ご指摘のとおり、課題があることは認識しているので、今後検討していきます。</p>
77	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（山本委員） 資料2のp.13「②計画的、効果的な質の向上の実践」について、研修などの取り組みは認可外保育所も対象となっているのか。認可施設と同様に組み込まなければ、格差が広がってしまうのではないかと思う。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 研修などについては、認可外の施設にも声をかけて参加していただいています。また、交通事故などが起こらないようにするための現場の点検や、国からの通知の周知も、認可外保育施設を対象に実施しています。</p>
78	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（富岡委員） 保幼小の連携はうまくいっているところは、小学校が非常に頑張っていると感じる。意識の高い保育園などの場合はうまく機能するが、公立の小学校が担保できる部分が一定あると思う。計画ではどうしても幼稚園・保育園の話が多くなる傾向にあり、小学校の取り組みは目立たないが、個人的には、小学校の先生が動くということが大事だと思う。</p> <p>（安藤会長） 今回計画策定にあたり、計画の対象は「すべての子ども」ということで、就学前だけでなく、18歳未満を視野に入れて議論しようということでスタートしたが、どうしても就学前の比重が高くなってしまっているところがある。 ひとつ安心しているのは、令和2年から国による専門学校、短大、大学の奨学金制度が導入される。学習意欲があり、入試に受かる能力もあるのに、経済的問題により大学や短大などに進学できないという問題を解消できる。こういった国の制度に関連して、枚方市が国に先駆ける施策を、すべての18歳未満を対象として発信してほしい。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
79	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞	<p>（山本委員） 明石市のパンフレットに、離婚後の面会交流への行政のサポートが載っている。離婚に際して、当事者が冷静に子どものためになるような判断をすることが難しい場合に、行政が援助してくれるのはよいと思う。たとえば、養育費の不払いがあったときに行政が立て替える施策など、当事者にとって支えになるような施策に取り組めたらよいと思う。ハードルは高いかもしれないが、予防的などところで行政が果たす役割は大きいと感じている。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 明石市の養育費の制度などについては、明石市を視察するなど、参考にしています。申請の方法を紹介したり、本市の男女共生フロア・ウィルの女性相談の弁護士の先生に、申請書式のわからないところの相談に乗っていただく、といったことも考えています。男女共生フロア・ウィルと連携し、具体的な取り組みについて検討していきます。</p>
80	○第2期枚方市子ども・子育て支援事業計画の素案について	令和元年度 第2回 ＜令和元年8月20日（火）＞ （事後意見）	<p>（石田副会長） 施策目標2「子どもの貧困問題に対する施策の総合的な推進」の取り組みの記載で、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」の改正内容や計画（素案）中の他の記載内容と整合を図る視点から、「すべての子どもの現在及び将来が、生まれ育った環境に左右されない」主旨を明確に示すべきではないか。</p>
81	○第1期計画における取り組みの評価について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日（金）＞	<p>（富岡委員） 資料1のp.51「②子ども・子育て施策に対する市民満足度の推移」について、「算出中」とある数値は、だいたいどのくらいなのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】（事務局） 現在、精査中ですが、約3～5%の上昇を見込んでいます。</p>
82	○施策の推進方向（案）について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日（金）＞	<p>（富岡委員） 資料2のp.15「①保幼小のネットワーク化の推進」のところで「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」についての記述があるが、「10の姿」という文言を記載していない意図を確認したい。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 平成30年度の「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の全面実施による就学前の教育内容の整合性の背景として、「10の姿」の表記を追記しました。</p>
83	○子どもと子育て家庭を取り巻く状況について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日（金）＞	<p>（岩田委員） 資料1のp.17「⑤訪問指導」のうち「新生児訪問」の件数について、「こんにちは赤ちゃん訪問」との数字が大きく違う理由は何か。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 「新生児訪問」は保健センターの助産師等が訪問した延べ回数を掲載していますが、「こんにちは赤ちゃん訪問」は子育てサポーター等による訪問家庭数をカウントしており、保健センターによる新生児訪問家庭は件数から除いています。</p>
84	○子どもと子育て家庭を取り巻く状況について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日（金）＞	<p>（岩田委員） 資料1のp.23「⑥地域子育て支援拠点事業」について、中部地域の実績が突出している理由は何か。</p> <p>【ご意見に対する回答】（関係部：子ども青少年部） 中部地域には「広場さぷり」や「すこやか広場きょうぶん」など、駐車場が大きく、車で行きやすい施設が多いため、実績が多い状況です。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
85	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(山本委員) 資料2のp.44「⑦保育士等確保の支援」について、処遇改善を行うことが明記されてよかったと思うが、具体的にはどのような内容となる予定なのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部:子ども青少年部) 新規採用の促進と離職防止の2点から考えており、具体的な手法については、今後検討を進めていきます。</p>
86	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(山本委員) 施策目標4の子どもの創造性を育む取り組みについて、中学生に1人一台タブレットを配付されるということだが、子どもが未来をつくり出すための働きかけが弱い印象をうける。イノベーターと呼ばれる人や、チャレンジをした人と触れ合える機会など、子どもたちの視野を広げる取り組みがあればよい。タブレットを使って何をすることが大事だと思うので、与えられるだけでなく、生み出していくものを引き出す仕掛けがあればよい。AIや5Gなど新たな技術が生まれるなかで、子どもたちは未来をつくり出さないといけないので、その力を与えてあげる視点も入ると施策目標4が充実すると思う。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 「推進方向4-(5)子どもの社会的活動の推進」に、新たな項目として、「③子どもたちの夢を育み可能性を広げる学習・体験機会の提供」を追加し、子どもたちが夢と可能性を育み、未来をつくり出す力を身につけられるよう、さまざまな分野で活躍しているプロや、未来に向かってチャレンジしている人たちの体験談を聴いたり交流できる場を提供する取り組みを追記しました。 また、それに合わせて、「主な取り組み」に以下の事業を追記しました。 ・枚方市こども夢基金活用事業 ・青少年健全育成市民啓発事業 ・子ども大学探検隊</p>
87	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(富岡委員) タブレットの配付は全国的にも取り組まれていると思うが、一方で昨今は子どもがパソコンを使えなくなっているとも聞く。子どもの創造性を育て、使う力を自ら生み出していくということは大切だと思う。タブレットを導入して失敗した自治体の事例も多い。そういった失敗事例もみながら、よい方向に進めてほしい。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) ご意見を踏まえながら、取り組みを進めていきます。</p>
88	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(藤村委員) 切れ目のない支援については、今年度から「親支援プログラム」が充実してきたと感じるのは、よい傾向だと思う。 また、発達支援について、枚方市の巡回相談はどのように行うのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部:子ども青少年部) 公私立の保育所(園)等への巡回相談・保育相談については、園からの希望に基づいて巡回を行い、保護者の同意に基づく発達検査や、気になる子どもの行動観察を実施し、カンファレンスにより先生方と子どもの発達状況の共有及び保育への助言を行います。 また、幼稚園への巡回相談については、支援教育に関する専門相談員を派遣し、先生方への指導・助言、研修会を行うほか、園児や未就園児の保護者への相談支援を行っています。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
89	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日(金)＞	<p>(藤村委員) 他市では、不登校の子どもにフリースクールや少人数の居場所を確保している事例がある。枚方市には、フリースクールとして認められている施設はあるのか。 また、不登校の子どもが増加傾向にあるなか、個人に合った居場所の選択肢として、フリースクールに助成を行うなどして、枚方市内で増やしていく考えはあるのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部：学校教育部) 本市の教育文化センターでの適応指導教室「ルポ」では、不登校の子どもたちの社会的自立をめざして取り組んでおり、ルポに通う子どもについては、学校長が出席扱いにすることができます。 フリースクールは枚方市内に1つあり、他市の施設に通っている子どもも把握していますが、学校と十分に連携できているフリースクールについては、ルポと同様に学校長が出席扱いとすることができます。フリースクールを増やすための助成を行う予定は今のところありませんが、教育文化センターでの「ルポ」の機能を充実させていきたいと考えています。</p>
90	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日(金)＞	<p>(北山委員) 巡回相談については、私立幼稚園は、以前は年3回だったところ、今年から年4回になり感謝している。できれば、より公立幼稚園に近い頻度で行ってほしいと思う。 資料1のp.26「②支援学級数の推移」について、児童数が第1期計画期間中に、ほぼ倍増しているが、この原因についてはどのように考えているか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部：子ども青少年部) 支援学級数の増加については、保護者の障害への理解が深まり、学校としてもより支援を行ってほしいと取り組んでいることが要因と考えています。 支援が必要な子どもが増えているのかという点については、子どもの生活状況の変化、環境ホルモンの影響など様々な説がありますが、保護者の意識の変化や、子どもと関わる人たちへの認識が広まり、今まで以上に把握されるようになってきたことも一因と考えています。</p>
91	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日(金)＞	<p>(北山委員) 支援が必要な子どもたちが増えてきていることについては、「環境ホルモンや医学的な側面」と、「家庭における子どもの育ちへの適切な関わり方」について分けて考える必要があると思う。家庭での親子のかかわり方の面から、支援が可能な方策はあるかと思うので、第2期計画の中で検討いただきたい。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 「推進方向3-(6) 障害のある子ども等への支援の充実」の「⑤配慮が必要な子どもへの支援」の項目に、発達上の課題を抱える子どもの健やかな成長のためには、安定した親子関係の中で育まれることが大切で、発達上の悩みや育児の不安を抱える保護者に対し、関係機関も含め、医師、保健師、心理相談員、保育士などが連携を図りながら、子どもとの遊び方や接し方の指導等を通じて、よりよい親子の関係づくりを支援する旨を追記しました。</p>
92	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 ＜令和元年11月1日(金)＞	<p>(石田副会長) 配慮が必要な子どもの巡回訪問に関する事業について、保育所については計画に記載があるが、幼稚園については記載がないので整理すべきである。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 「推進方向3-(6)」の「主な取り組み」の項目に、「支援教育学校園支援事業(幼稚園巡回相談等)」を追記しました。</p>

No.	区分	分科会開催日等	委員によるご意見
93	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(山本委員) 発達障害については、大人になってからわかる人なども増えてきた印象を受ける。社会の認識が変わってきたと思うが、より詳細なデータなど客観的な現況の分析をもとに、今後の支援の方策を見出していくことも大事だと思う。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) ご意見を踏まえながら、取り組みを進めていきます。</p>
94	○施策の推進方向 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(藤村委員) 枚方市の言語聴覚士にはどこで会えるのか。子ども発達支援センターにもおられると思うが対応していただけるのか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部:子ども青少年部) 子ども発達支援センターには2人体制で配置しています。通っているお子さんだけでなく希望される外来者への支援も行っていますが、希望者が多く、待っていただいている状況もあり、引き続き体制確保に取り組んでいきたいと考えています。</p>
95	○目標事業量 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(田邊(快)委員) 資料4のp.6「留守家庭児童会室事業」について、5・6年生は横ばいで見込まれているが、入室の対象になったのは平成29年度以降なので、資料のような推計が妥当なのか疑問である。計画のなかで放課後児童対策の充実を図るとするのであれば、増えていくという予測もできるのではないか。</p> <p>【ご意見に対する回答】(関係部:社会教育部) 児童の放課後対策については、現在、策定作業を進めている「児童の放課後を豊かにする基本計画」の中で、留守家庭児童会室だけでなく、全児童を対象とした放課後子ども教室なども含め、様々なニーズに対応できる総合型放課後事業として取り組んでいく予定としております。今後、実績を十分に注視しながら、対策を進めていきたいと考えています。</p>
96	○目標事業量 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(石田副会長) 資料4のp.17「養育支援訪問事業」について、4年の平均値をとられていると思うが、直近の実績に照らすと、量の見込み「788人日」は少ないのではないか。</p> <p>【ご意見を受けての対応】 量の見込みの考え方について、横ばいで推移することを基本とするものの、過去の利用実績については、平均値ではなく、平成30年度の利用実績を量の見込み(999人日)とすることに修正しました。</p>
97	○目標事業量 (案)について	令和元年度 第3回 <令和元年11月1日(金)>	<p>(北山委員) 資料4のp.6「留守家庭児童会室事業」の目標事業量について、そのうち支援学級に通う児童数のデータを盛り込む考えはないか。支援の必要な子どもの数が増えているなかで、計画として見込み、対応を準備しておくとともに、そういった数値についても広く知っていただく目的からも記載すべきと考える。</p> <p>【ご意見に対する回答】(事務局) 本計画については、根拠法である子ども・子育て支援法や国が示す基本指針に基づき策定するものであり、必要な目標事業量の項目も定められています。ただし、ご指摘の点を十分に踏まえ、他の行政計画と連携を図りながら、対策を進めていきます。</p>